

日仏美術学会第 129 回例会のご案内

# 写真と演劇

## 文学と庭園、

Littérature et jardin, photographie et théâtre

— 交差する芸術 —  
— Croisement des arts —

日時：2013 年 12 月 21 日 (土)

14 時 30 分～17 時 15 分

場所：京都大学文学部第 6 講義室

市バス「京大正門前」下車すぐ

京阪電車「出町柳」駅下車徒歩 12 分



▶14 時 30 分～15 時 10 分 津森圭一 (上智大学グローバル教育センター)

「ブルーストと庭園の詩学—読解の対象としての庭」

『失われた時を求めて』

では、コンプレーのswan家の庭園、シャンゼリゼ公園、貴族の邸宅の庭などの「庭園」jardin が

舞台となり、小説の筋の運びを決定する役割

を果たしている。これら小説中に登場する庭園は、

フランス式整形庭園、英国式風景庭園、日本庭園など、各様式の性格が混在したものである。この多彩な庭園が庭園

の鑑賞者に読解を促しているとするれば、テキストに描写される庭園も特定の意味を担い、読者がそれらをいかに読み解くかが問題となる。芸術が模倣する対象となるのが自然の「風景」であるとすれば、庭園の

人工的な「風景」は自然が芸術を模倣した表象である。両者の区別がブルースト

作品においていかに機能しているかを考察することで、ブルースト的「庭園」が、主人公にとって、芸術創造のための契機を授けられる場として機能していることがわかる。

▶15 時 20 分～16 時 長野順子 (神戸大学大学院人文学研究科)

「セルフポートレートにおける演劇性

—クロード・カーンと前衛劇との交差から—

シュルレアリストの女性写真家・作家

として近年注目されはじめたクロード・カーンは、セルフポートレートにおける鏡像や多重像の使用、

異性装・仮装への傾向により、

主にジェンダーや主体の同一性転覆という視点から考察

されてきた。こうしたフェミニズム的・ポストモダ

ン的なアプローチに対して、カーンの短い演劇活動

に焦点を当てながら、そのセルフポートレートを「演劇性」とい

う面から解釈し直すことが、本発表の目的である。

1920 年代に盛んになった前衛劇場の

Théâtre ésoérique や Le Plateau に、カーンは俳優や機関誌の寄稿者として、彼女のパートナー M. ムーアはポスター等のイラストレーターとして関わった。そこで交流した劇場人にはエキゾチックな歌や踊りを提供した日本人数人も含まれる。この時期の彼女たちの舞台への関与の仕方とともに、カーンのセルフポートレートや文学テキストにおける「演出」や「パフォーマンス」の要素について明らかにしたい。

▶16 時 15 分～17 時 15 分 全体討論

コメンテータ 和田章男 (大阪大学大学院文学研究科)

コーディネータと司会 吉田典子 (神戸大学大学院国際文化学研究科)

TEL: 078-803-7488 E-mail: ynoriko@kobe-u.ac.jp

日仏美術学会 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-9-25 日仏会館内  
Tel / Fax 03-3280-2415  
E-mail: art-francojaponais@digital.email.ne.jp